



全米表彰式で日本の受賞者として紹介された中村さん（左）、吉田さん

Vスピ 新形式で全米表彰式開催。日本から米国ボランティア大使2名がオンライン参加

4月24日から4月27日（日本時間）にかけ、Prudential Emerging Visionaries全米表彰式（以下、全米表彰式）がニューアーク・ニューヨークにおいて開催され、日本からは第25回米国ボランティア親善大使の2名がオンラインで参加しました。

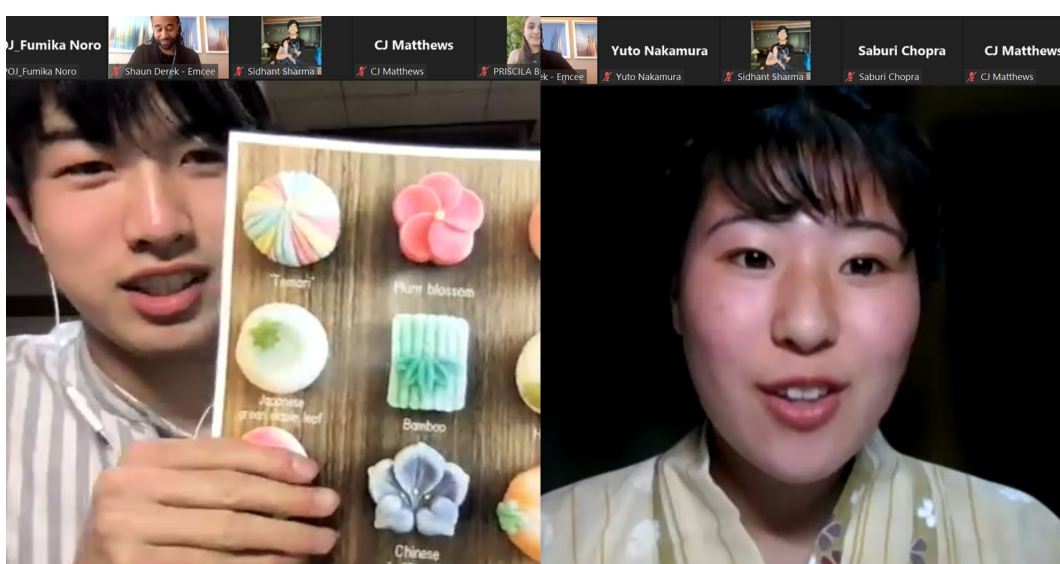
◆受賞対象となったボランティア活動◆

第25回ボランティア・スピリット・アワード米国ボランティア親善大使・中村 侑人さん

おにぎりを作り、NPOの方の協力の下、路上生活者や生活困窮者の方に届ける活動で受賞。参加者は呼びかけによって集まった同じ学校の生徒たち有志で、毎回15人程度で1～2ヶ月に1回、1年以上継続しておこなった。日本の全国表彰式では、「熱意さえあれば、活動が続いていく、それをサポートしてくれる人たちがいるということを実感した。自分の行動次第ですべてが変わっていった、熱意さえあればフォローしてくれる人も出てくるし、周りの人も協力したり、興味を持ってくれたりするんだということを実感した」と語った。

第25回ボランティア・スピリット・アワード米国ボランティア親善大使・吉田 由良さん

子ども食堂のボランティアと、フードバンク・雑貨バンクを組み合わせたソーシャルバンクの活動で受賞。日本の全国表彰式では、周囲との人間関係に深く悩んだ過去に触れ、「一人の先生が子ども食堂のボランティアを紹介してくれたのがきっかけ。最初は嫌々子ども食堂に連れていかれたが、スタッフさんも私を無条件に丸ごと受け入れてくれ、子どもたちも笑顔で駆け寄ってきてくれて、子ども食堂という温かい雰囲気には心から救われた。私に成長を与えてくれたものが子ども食堂だった」と語った。



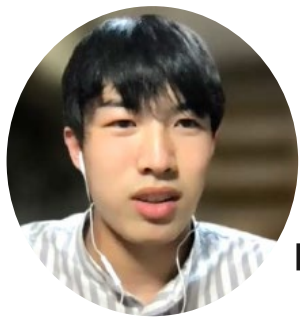
日本文化をプレゼンする中村さん（左） 吉田さん



（左から）
グランド・プライズ受賞者5名、社員賞受賞者、ラウリー会長

全米表彰式は、アメリカ全土からの受賞者25名を招いて開催され、日本、インド、ブラジル、中国の親善大使はオンラインでの参加となりました。各国の親善大使が招かれたオンライン情報交換会では、「自身の活動」「自分の国の好きな文化」について互いに発表し合い、全米表彰式では、ラウリー会長から全受賞者への賛辞が贈られた後、元アメリカンフットボール選手であるイーライ・マニング氏が登場、1時間にわたり受賞者との質疑応答が行われました。

最終日には、全米グランド・プライズ受賞者5名がサプライズで発表されました。また、今回から社員賞が新設され、約900人の社員の投票で受賞者が選ばれました。



中村 侑人さん

—米国ボランティア親善大使として参加していかがでしたか？

まず、自分がこのような役職に任命されたこと自体にとっても嬉しく思っております。

今回はオンラインでの参加となってしまう、なかなか各国の親善大使とコミュニケーションを取ることが出来ず少し残念ではありました。ぜひ、今後可能であれば、現地で参加できる時にはご同行させていただきたいです。

より英語力をその時まで磨き上げ、他の国の学生たちはどのような事を考え、何に問題を感じ、行動してきたのかをディスカッションしたいです。

—一番伝えたかったのはどういった点ですか？

思いについて教えてください。

日本が抱えている貧困の実態に対してアプローチをしている人がいることを知ってくれば良いと思えました。日本では海外のように大きなデモ活動やストライキなどが行われていることはないし、おそらく海外でもあまり日本のデモというのが報道されることは無いのではないかと考えています。それでも誰も関心を持っていないのではなく、行動している人もいることを知ってくれば嬉しく思います。

—米国ボランティア親善大使として参加していかがでしたか？

世界各地でもその地域ならではの問題があり、それを明確に問題視できていて、それに対するボランティアの枠を超えたボランティアをしている方が多くいたのを見て、聞いて、とても圧倒されました。直接的な交流は出来ませんでした。が、凄さはオンラインでも感じる事が出来て、とても刺激を受けました。本当にありがたい経験でした。

—文化の紹介では、浴衣がとても素敵でした。また、今回折り紙なども紹介されましたが、どんなところを伝えたかったですか？

浴衣、鶴の綺麗さです。日本といえば何を思いつくかと言うとたくさんの海外の方は浴衣、桜、折り紙等答えます。この情報はテレビからです。であれば、実際に私が浴衣を見せるだけでなく着ることで、また折り紙も見せるだけでなく折ることをすれば、美しさがよりわかるかなと工夫しました。

実際に浴衣はローマ字で、「かわいい」等のメッセージがチャットで送られてきました。美しさを世界に発信し、それを共有することが出来たのだと思いき嬉しく感じました。

—各国の参加者の発表を聞いて感じたことを教えてください。

それぞれの国でそれぞれの状況に対して色々な視点や自分の得意な分野をベースに活動をしているという印象を受けました。ぜひ詳しく話を聞かせてほしいですし、またどういうモチベーションやマインドで社会活動に参加しているのか、社会課題に意見を持っているのか、より知りたいと思いました。

—これからのご自身のボランティア活動や、将来やってみたいことなどがありましたら教えてください。

デモだけでない、日本型の新しい社会運動の在り方を提唱する必要があるのではないかと最近では考えています。アイデアとしては、国や企業に対して具体的な政策案を活動の分野を超えた繋がりを作りながら、提言することを考え、実行に移したいと思っています。

先日、Z世代を対象に行われた、社会問題に関するアンケート調査のデータを見つけました。その中で興味深かったのが、社会問題に関心があると答えた人は87%だったのに対し、参加したくない社会活動はなにか、という問いに対して50%以上の方がデモやマーチを挙げていたことです。

多くの方が社会問題に関心を持つようになってきているいま、さらに必要なのはそう思っている人を繋ぎ、参加、賛同したいと思えるアプローチ法を整えることが必要だと考えています。

—各国の参加者の発表を聞いて感じたことを教えてください。

ボランティアの枠を超えたボランティアつまり、起業していると思えました。具体的に、私はそのボランティア活動に必要な資金は財団等を通して、申請書をかき、助成していただいていた。しかし、ほかの参加者は資金集めからのスタートです。そしてその活動は、自国にとどまらず世界各地にその支援が行き届いている、本当に中高生がしているのかととても驚きました。

私も負けてられないと奮い立たされました。

—これからのご自身のボランティア活動や、将来やってみたいことなどがありましたら教えてください。

世の中の弱い立場の人間である、こども、女性、高齢の方などを支援することをしたいです。また、子供に優しい社会=良い社会という方程式がこれまでの活動を通して、感じました。なので、彼らの支援と共に、より良い社会づくりに携わっていきたいです。



吉田 由良さん